

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 5月27日 8:13AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,600～39,700 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 36,500～42,800 ドル
(S&P500) 4600～6050

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 17,600～22,000
(ナスダック総合) 15,700～19,900

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 130.000～145.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

エリオット波動とは

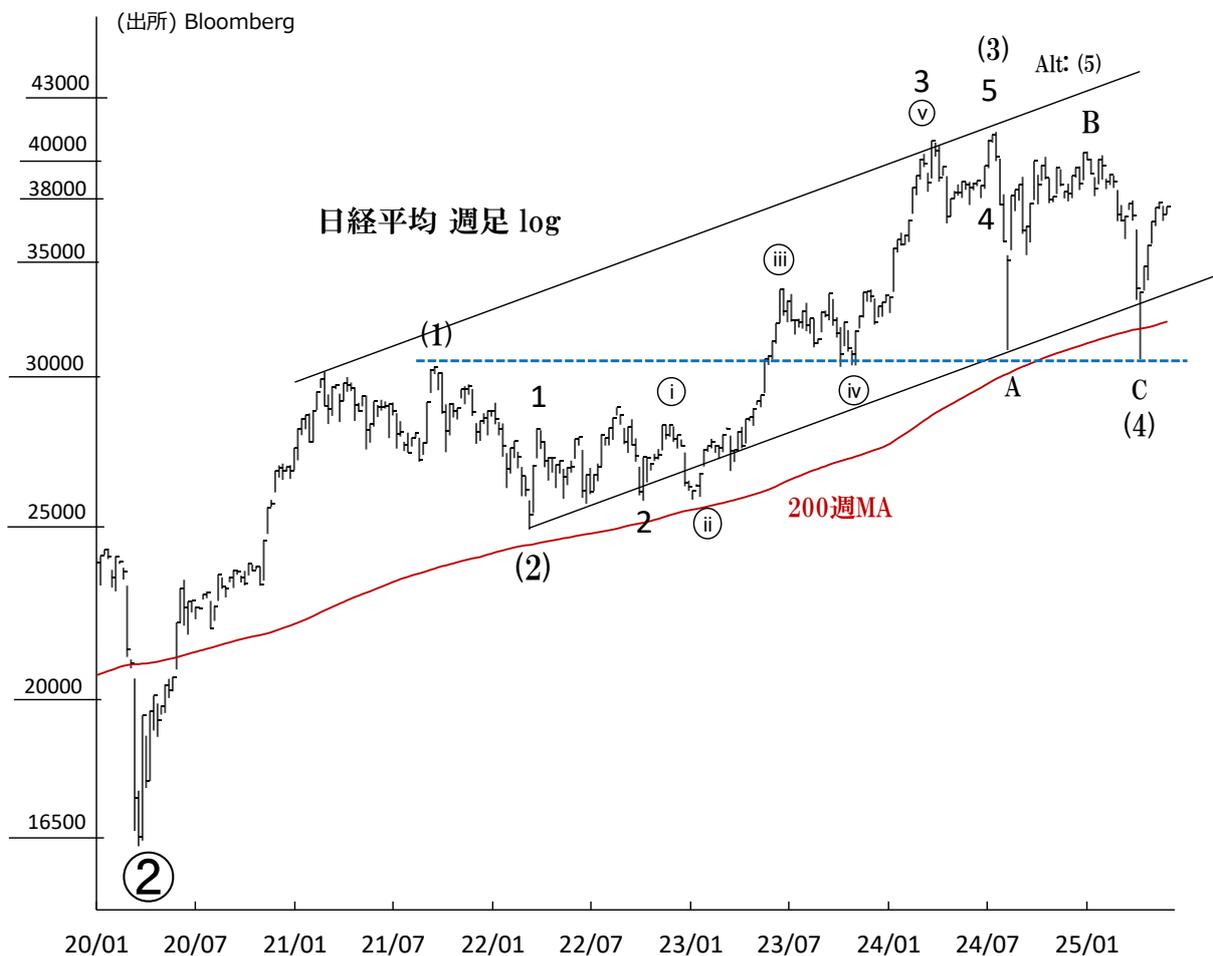
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



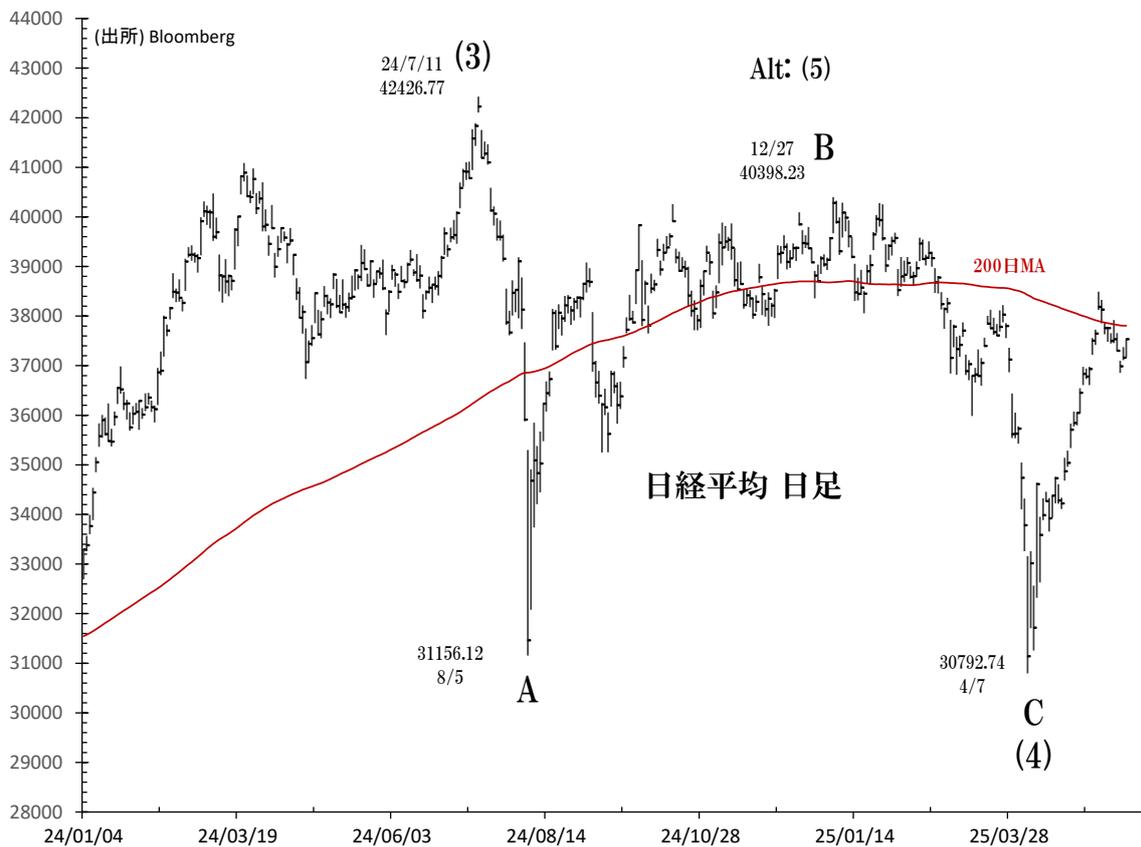
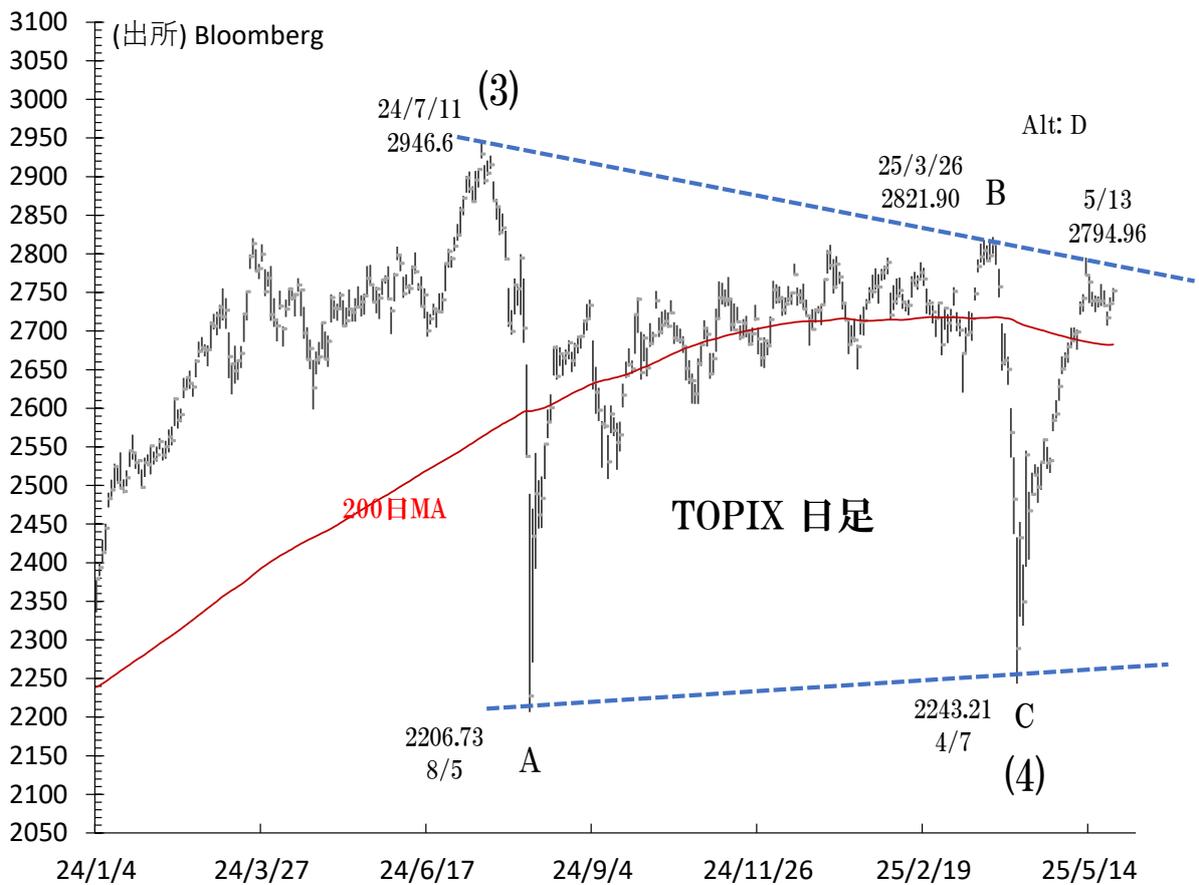
【週足 エリオット波動分析】

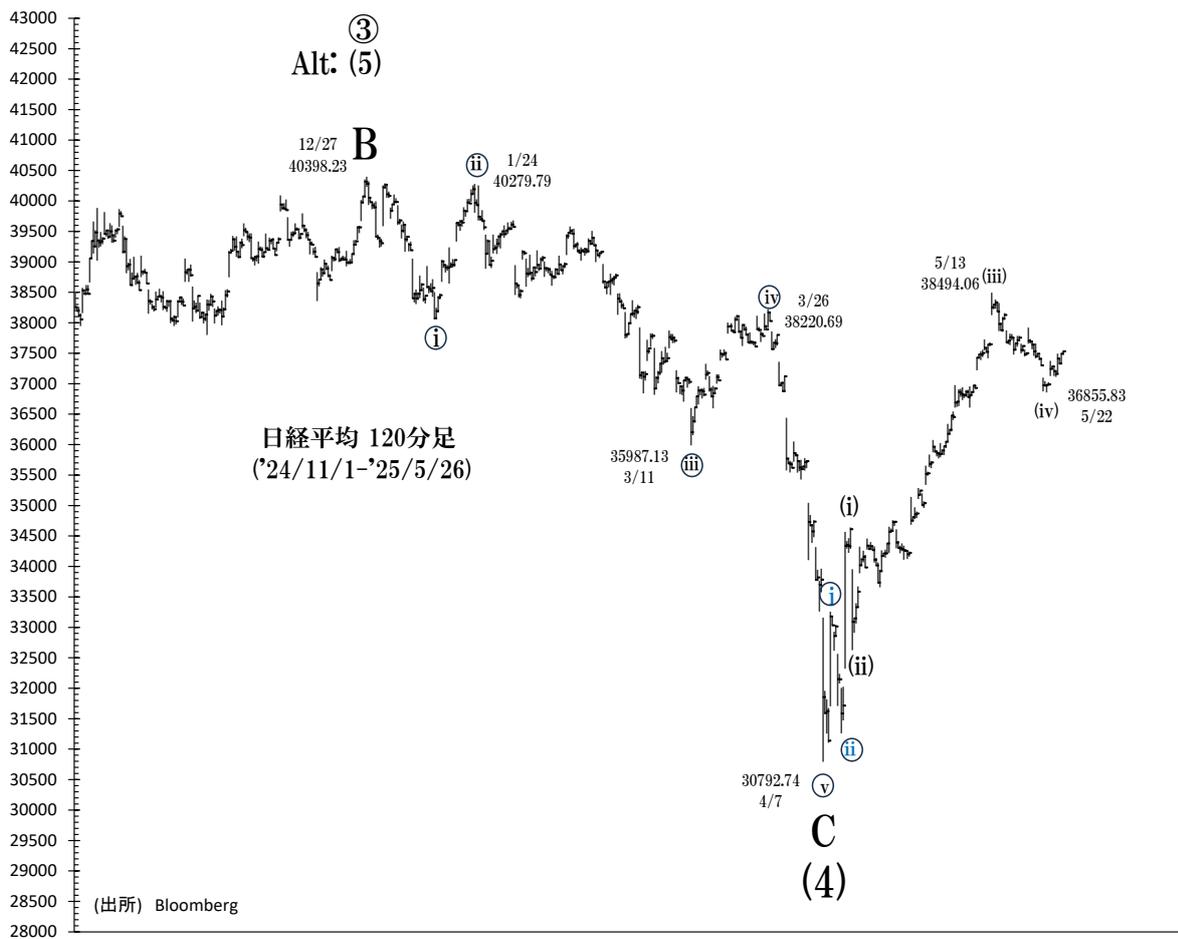
日経平均は、重要サポートとしての 200 週 MA を上回って推移しています。同 MA を今後も維持する限り、プライマリー上昇③波は依然継続中とみられます。

日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇を展開中とみられます。そして第(5)波は、20 年 3 月コロナショック底(16358.19 円)からのラリー中「最後の上昇」に相当します。順当にいけば、第(5)波は 24 年 7 月高値(42,426.77 円)を上抜き史上最高値を更新するでしょう。

当面は、①旺盛な自社株買い、②米ドル離れ・円高傾向を受けての海外マネー流入、これら需給要因が第(5)波を支える展開が期待されます。

注目すべきは、ドル建て TOPIX が直近 19.25ドルへ上昇し、21 年 9 月高値(19.32ドル)に迫っていることです。今後 19.32ドルをブレイクすれば、03 年 4 月(6.41ドル)以来の強気相場における最高値の更新を意味します。それは日本株見直し機運を高め、海外マネーの流入を促すきっかけになるでしょう。





【日足・時間足 エリオット波動分析】

30,792 円(4/7 安値)から、インターミディエイト級第(5)波による上昇が進行中とみられます。

TOPIX が 13 連騰をはたした期間(4 月 22 日～5 月 13 日)には—このとき欧州とアジアの投資家の買いが入ってきたという観測があります—日経平均も切れ目なく上昇しています。この強い上昇は、何らかのディグリーにおける「第 3 波」でしょう。便宜上、仮にそれをミニエイト級の第(iii)としておきます。

上チャートに表示したように、38,494 円(5/13 高値)が第(iii)波ピークだとすると、そこからの反落は第(iv)波に相当します。36,855 円(5/22 安値)は第(iv)波の終点か、あるいは、(iv)-a 波とみられます。

この見方が正しければ、既に第(v)波による上昇が始まったか、始まりつつあり、38,494 円を上回る展開が予想されます。

(オルタナティブ・カウント)

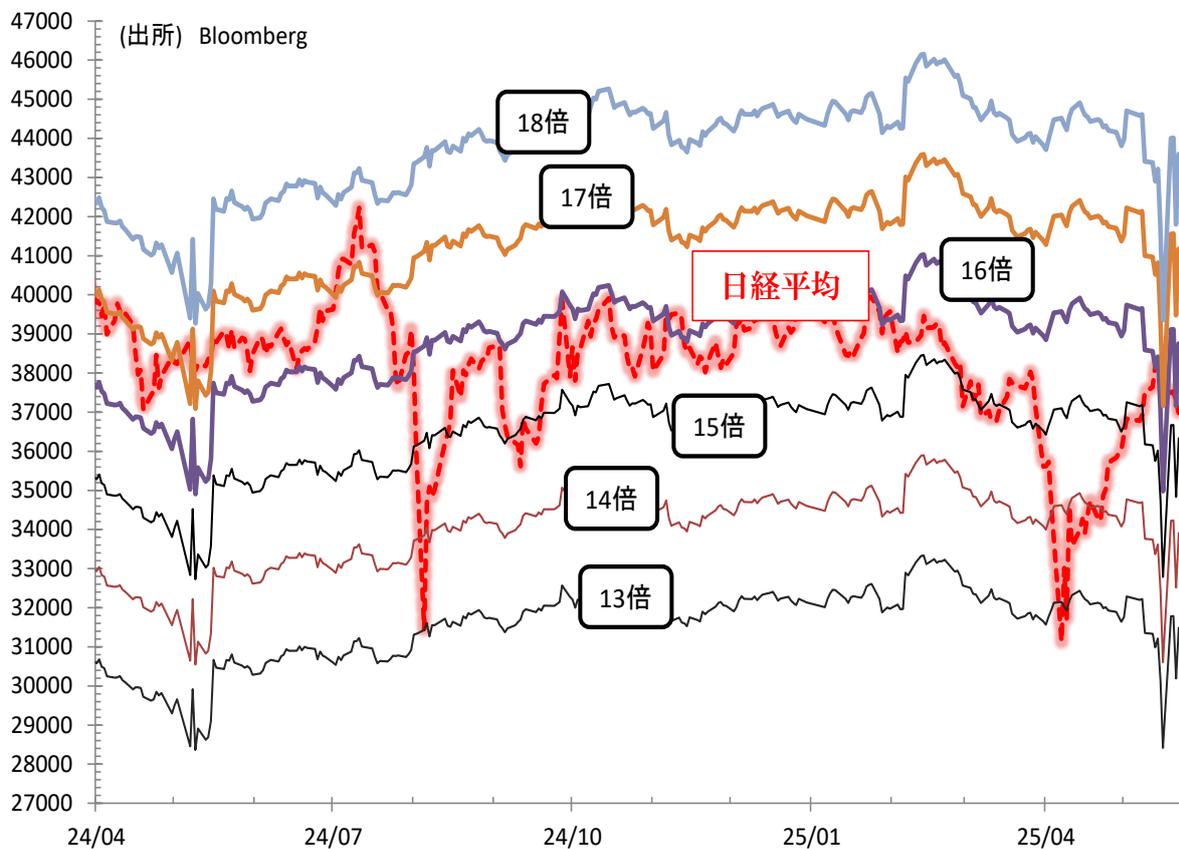
30,792 円を下抜くと以下の波動カウントに切り替えます。

24 年 8 月からの上昇第(5)波は 40,398 円(12/27 高値)を以て終わり—”truncated fifth”(短縮された 5 波)—プライマリー級の④波による調整が進行中とみられます。この場合日経平均は、いずれ 2 万 7000 円処(PBR1 倍水準)を試す可能性があります。

[予想 PER 別の日経平均水準]

5月26日の日経平均予想 PER は 15.46 倍・予想 EPS は 2427 円。

過去最高の EPS は 2564 円(2/13)です。



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ日足 エリオット波動分析】 (5月26日の米国株市場はメモリアルデーで休場)

36,611ドル(4/7 安値)からは第(2)波によるリバウンドに当たります。

5月19日高値(42,842ドル)は、第(1)波中レッセー・ディグリー第4波高値[42,821ドル](3/26)に合致し、第(2)波が終わるのに理想的な水準を満たしました。

5月23日は一時41,354ドルまで下げました。

既に第(3)波下げトレンド開始が示唆されていますが、弱気見通しは、41,249ドル(5/8 終値)を下回ることによりさらに強化されるでしょう。

引き続き上値試しが続くなら—その可能性は低下していると思われませんが—24年高値からの下げに対する76.4%–78.6%戻り[43,076ドル–43,262ドル] がメドになります。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

(プリファード(優先)・カウント)

4910(4/8 安値)からの第(2)波は 5968(5/19 高値)を以て終了し、既に第(3)波下落が始まった可能性があります。関税協議で米中が(暫定)合意した 5 月 9 日前日(8 日)に付けた高値は 5720 です。今後 5720 を終値で下回る動きがみられれば、それは米中合意のサプライズでの上昇分すべてを打ち消すことを意味し、最初の弱気トリガーが発動します。

来る第(3)波の下落スケールは、第(1)波と同程度(1293 ポイント)か、(順当なら)より大きなダイナミックなものになるでしょう。

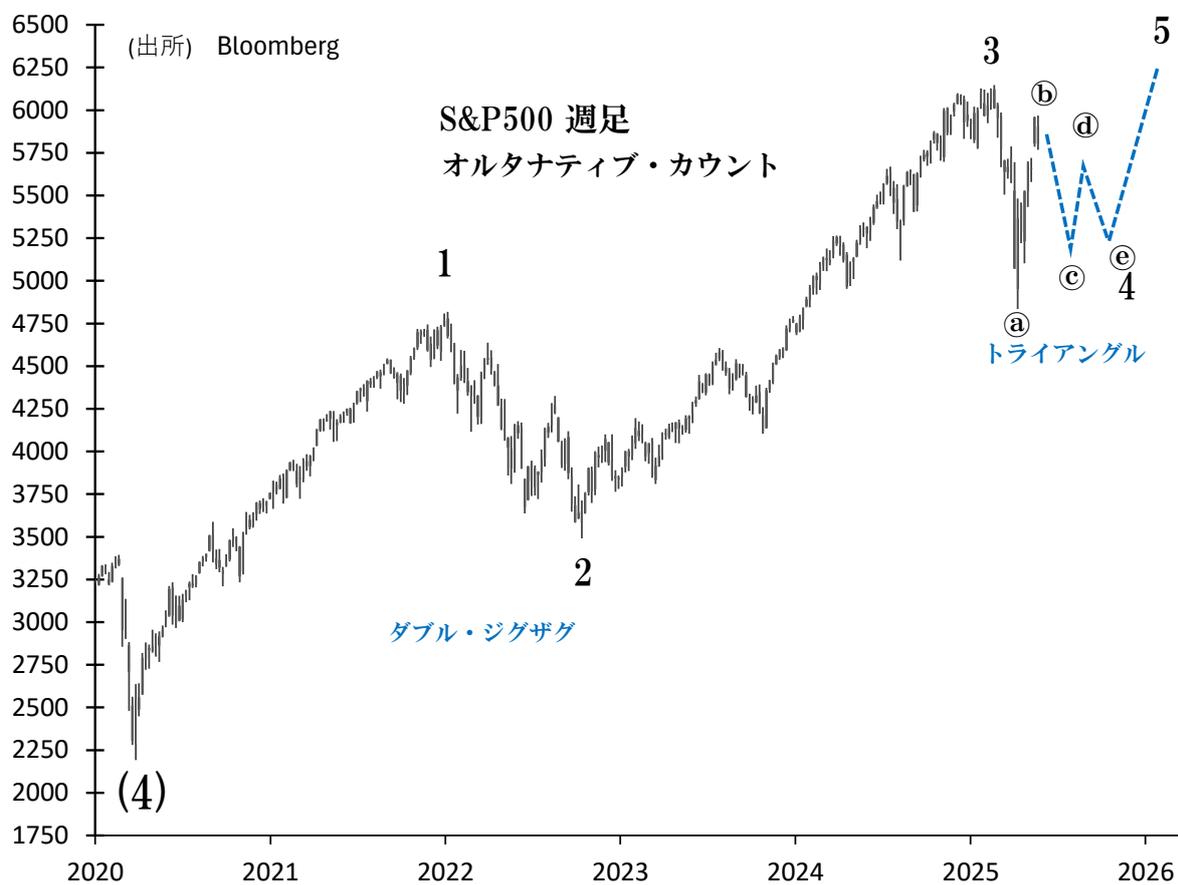
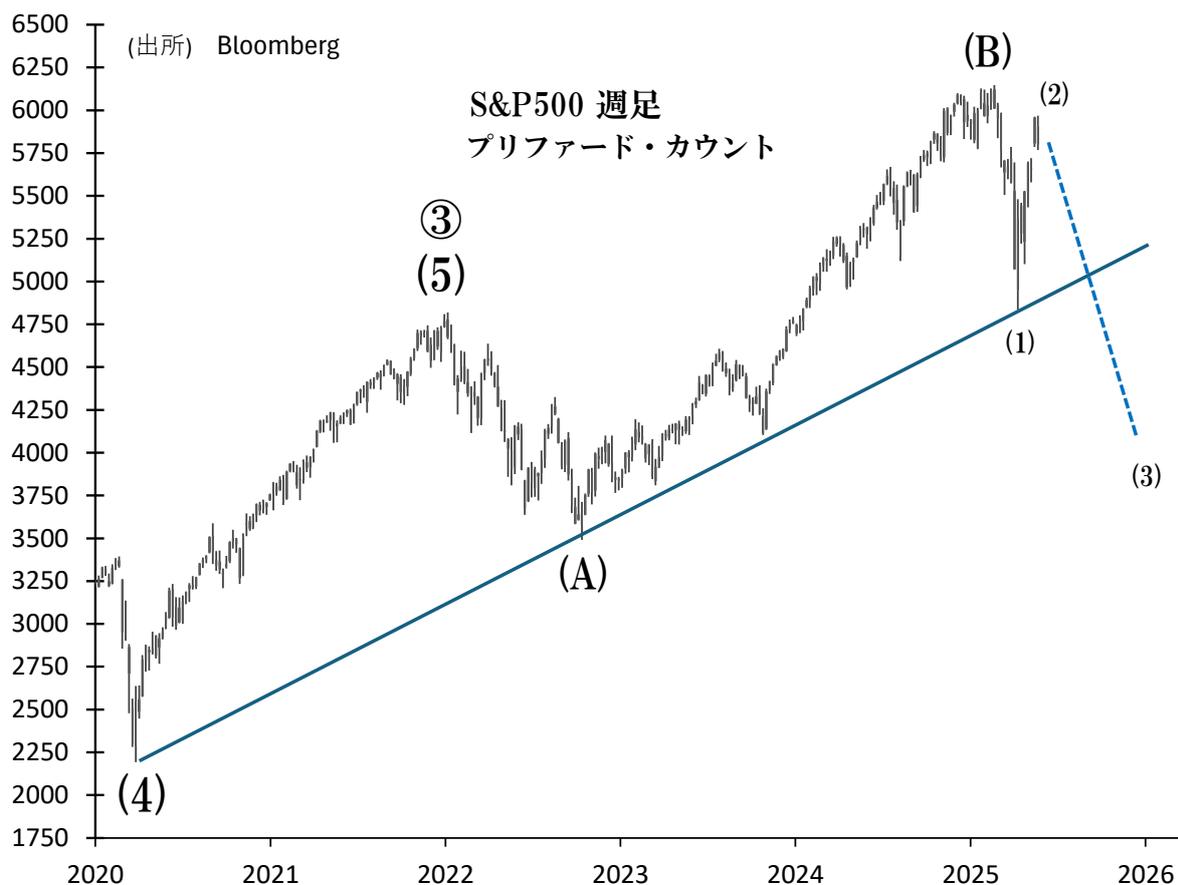
(オルタナティブ・カウント)

2020 年底からの五波構成中、今年 1 月からは第 4 波の調整局面です。

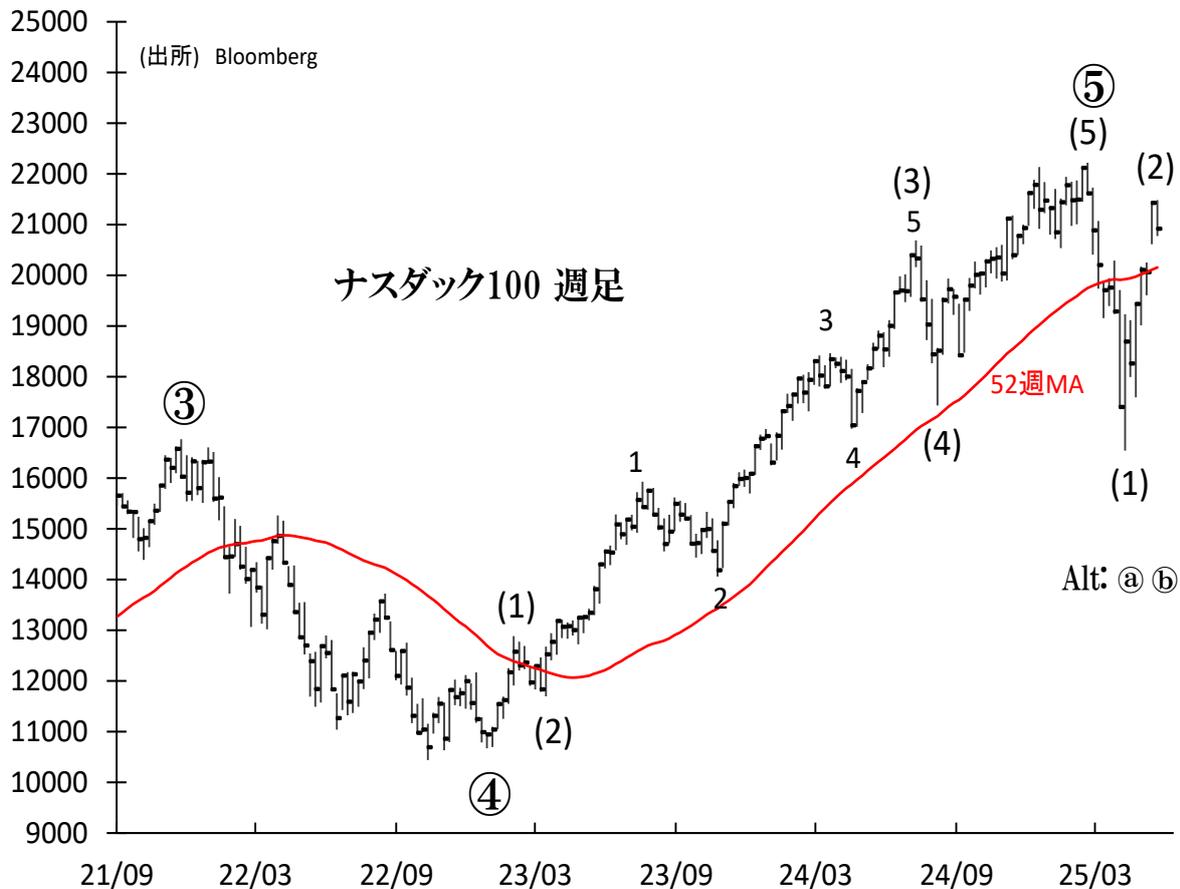
第 2 波(21 年末~22 年 10 月)が「ダブル・ジグザグ」だったことから、第 4 波は「トライアングル」「フラット」など複雑な保ち合い構造になるでしょう(オルタネーション)。

試みに「トライアングル」を想定すると、4 月からの上昇はパターン中ⓑ波です。まもなくⒸ波の下げに入りますが、それはⓑ波上昇分の 60%~70%を打ち消すでしょう。

これは弱気相場に入る前、最後の上昇第 5 波の可能性を残すシナリオです。



ナスダック

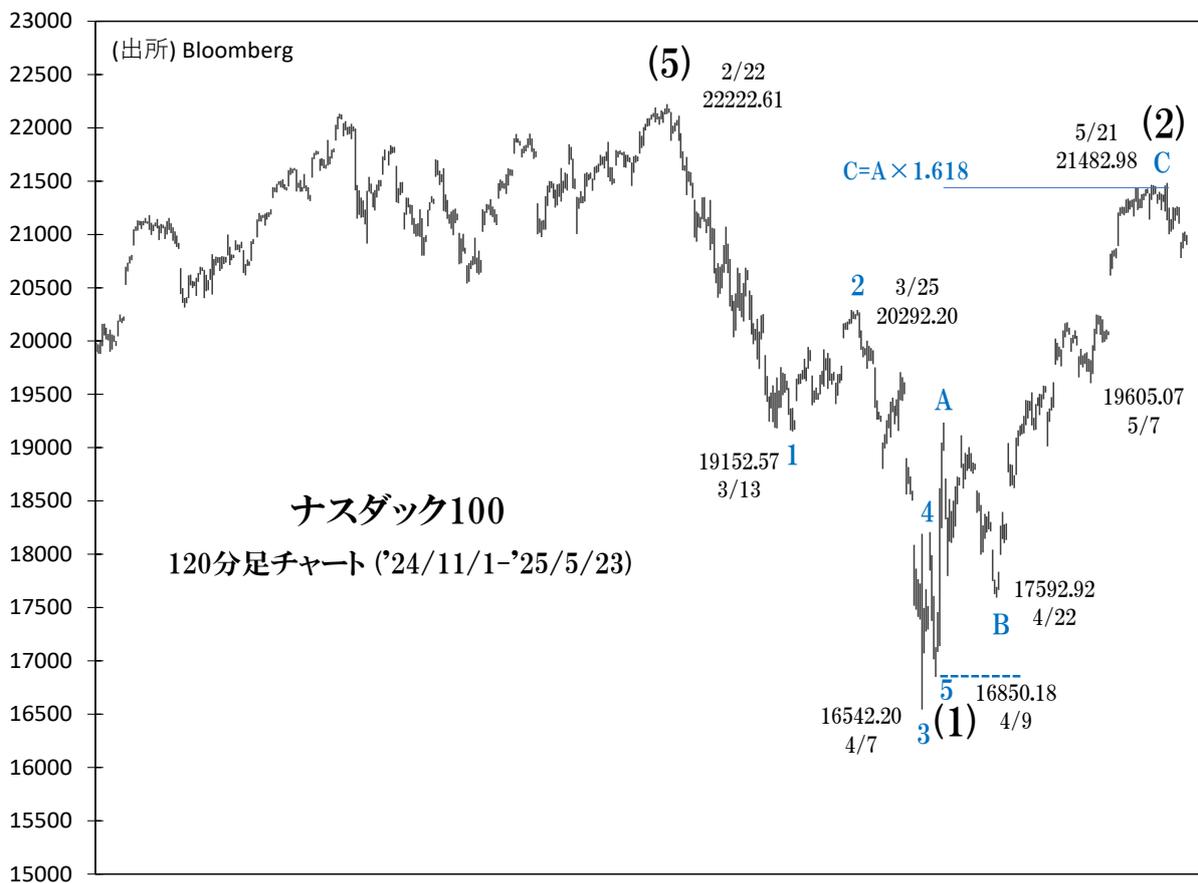


【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

ナスダック 100 は 25 年 1 月高値(22,222)以来、サイクル級の調整局面にあるとみられます。

ナスダック 100・総合指数はほぼ「全値戻り」となっています。これら二つの指数は近いうちに、1 月高値と現行の第(2)波を以て「ダブル・トップ」を形成し、そこから第(3)波の下落に入るでしょう。

オルタナティブ・カウントは、4 月安値からの上昇は第(5)波というもので—前の波に比べ第(4)波が大きすぎる点に違和感はありますが—ナスダックは高値を更新することが予想されます。それを以て強気相場は終了し、調整局面を迎えるでしょう。



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

16,850(4/9 安値)からは第(2)波リバウンドが進行中とみられ—第(1)波の下落トレンドにおいて第 5 波は短縮されました—そのパターンはジグザグ(A-B-C)です。17,592(4/22 安値)からの上昇は C 波に当たります。

直近高値 21,482(5/21)は、A 波と C 波が 1:1.618 のフィボナッチ比率になる水準[21,449]を達成するものでした。今のところ確信は高くありませんが、第(2)波は終わったかもしれません。

第(3)波による下落がスタートする可能性があります。

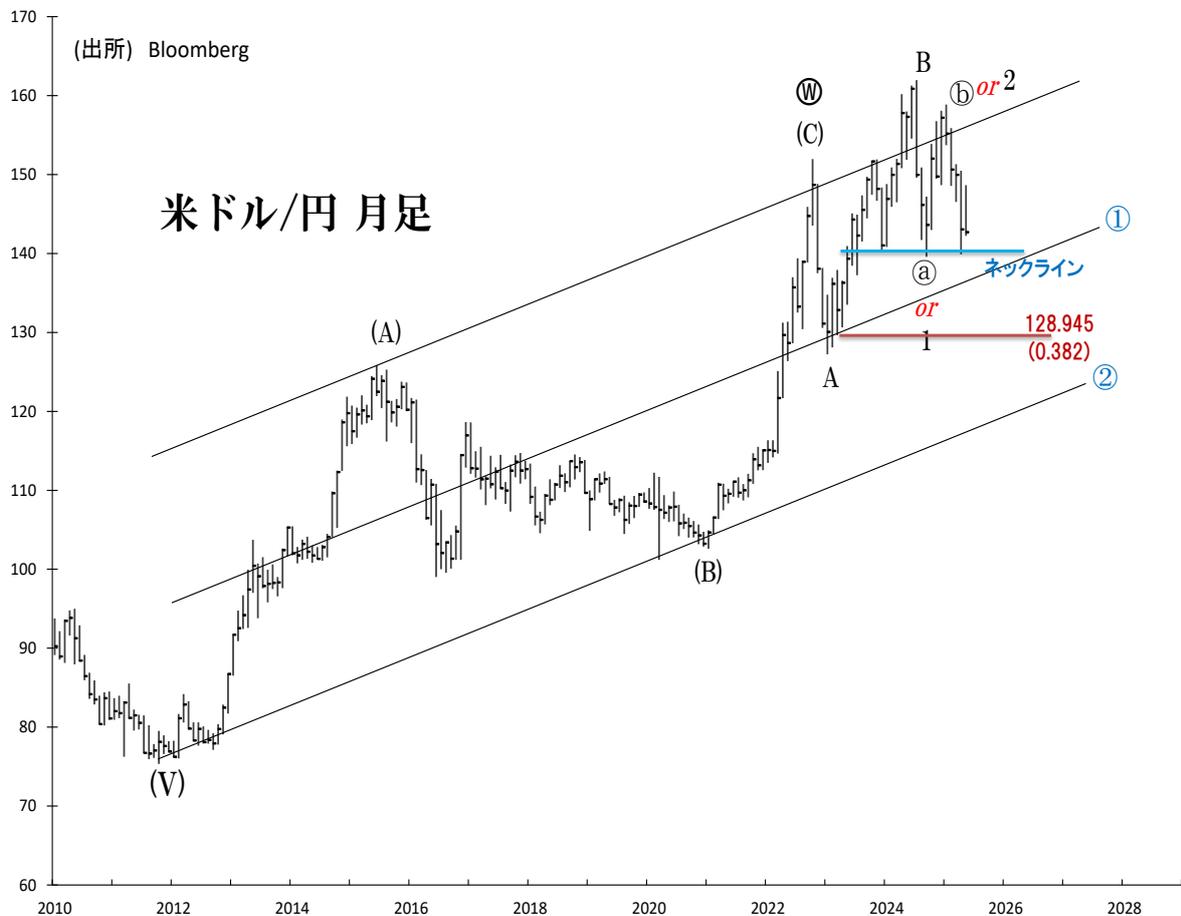
[20,249](5/8 高値)を終値で下回ると、第(3)波入りの最初のトリガーが発動します。

米 30 年債利回りが金融危機前の水準に接近

5 月 23 日の米 30 年債利回りは一時 5.15%まで上昇、23 年 10 月以来約 1 年 7 カ月ぶりの高水準を付けました。まもなく 23 年 10 月の 5.18%を上回り、07 年 6 月(金融危機前)以来およそ 17 年ぶりの高金利水準を付けるでしょう。超長期債の下落(金利上昇)は財政悪化リスク懸念を反映し、それはさらなる「ドル離れ」・株安を招く可能性があります。



米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

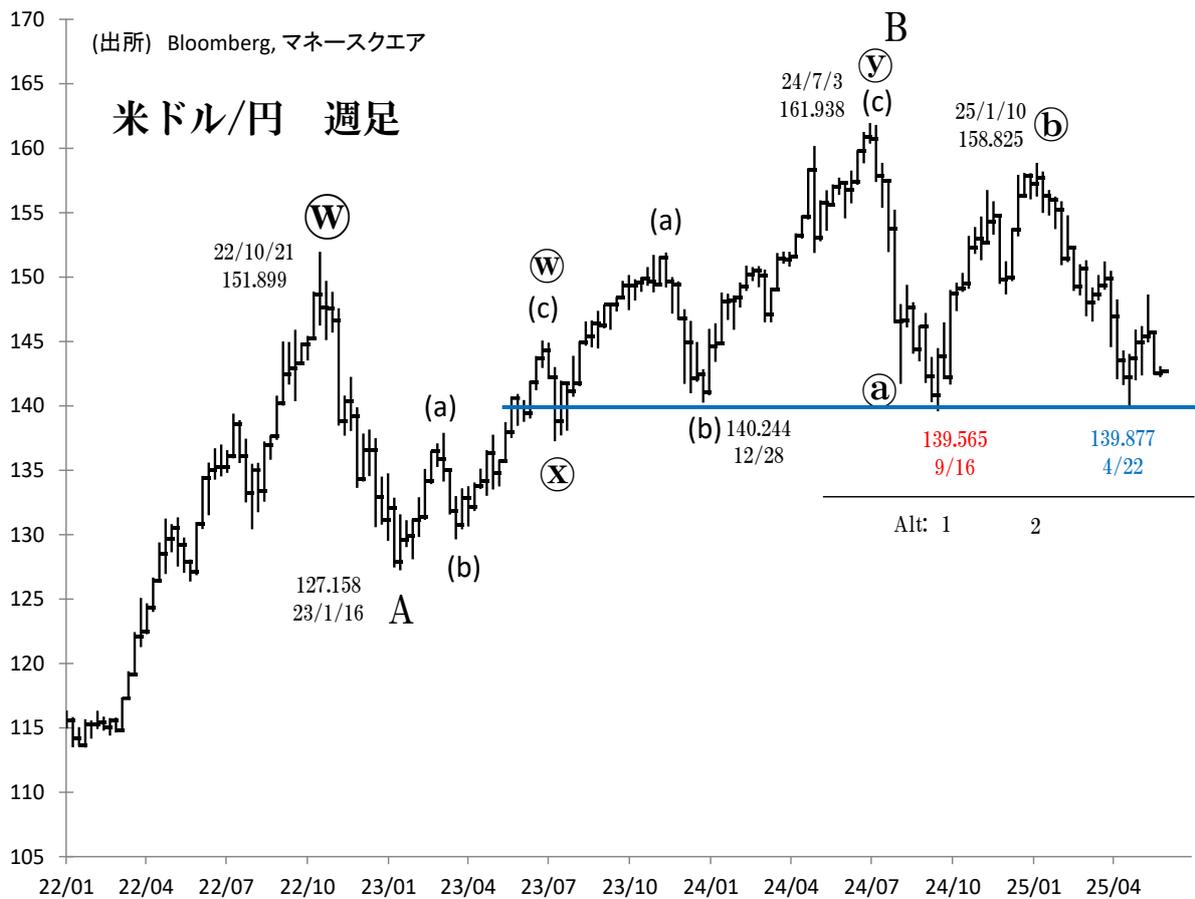
151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24年7月の161.938円は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

22年10月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行C波はA波安値(127.158円)を下回りません。C波は三波で構成され、まずは2011年からの上昇チャンネルのセンターライン①136.935円(6月)がサポートレベルとみられます。

もっとも139円処を下抜くとヘッド・アンド・ショルダーズ型の天井パターンから明確に下放れ始め—上述したセンターラインで底入れせずに—フィボナッチ・サポートの[128.945円]を試すと思われます。

②の場合は、現行C波(五波構成)はチャンネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は117.310円(6月)です。



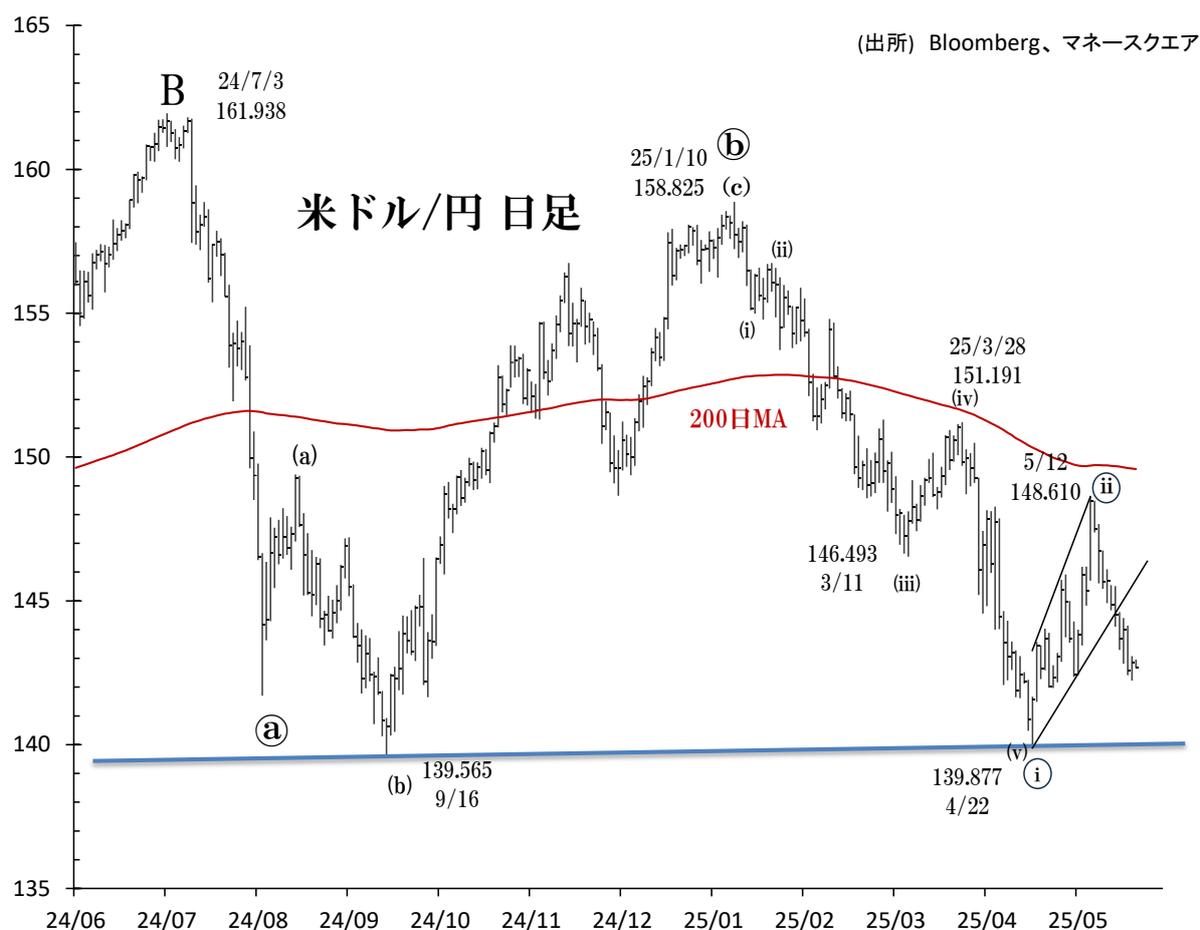
【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(24/7/3)からはC波によるドル安・円高トレンドです。C波は(先ずは)三波構成((a)-(b)-(c))が想定され、158.825 円(1/10)から©波によるドル安・円高が進行中とみられます。

今年 1 月からのドル安・円高を第 3 波とカウントすることもできます。このサブシナリオによれば、先々1ドル=120 円試しも視野に入ります(実際、ヘッド・アンド・ショルダーズに基づく垂直目標値は 120 円処です)。

139.877 円(4/22)からのリバウンドは終わったとみられますが、そうであれば、近々ヘッド・アンド・ショルダーズのネックラインをブレイクするでしょう。

ネックラインをブレイク後、最初のターゲットは 136.935 円近辺(既述)、その次は 128.945 円(同)です。



【日足 エリオット波動分析】

148.610 円(5/12)から、マル iii 波によるドル安円高が進行中とみられます。

5月26日には目先の注目された節目 142.272 円を一時下回り、およそ1カ月ぶり円高を付けました。足元で円高基調は強まっており、短期的にも 139.877 円(4/22)を試す展開となりそうです。

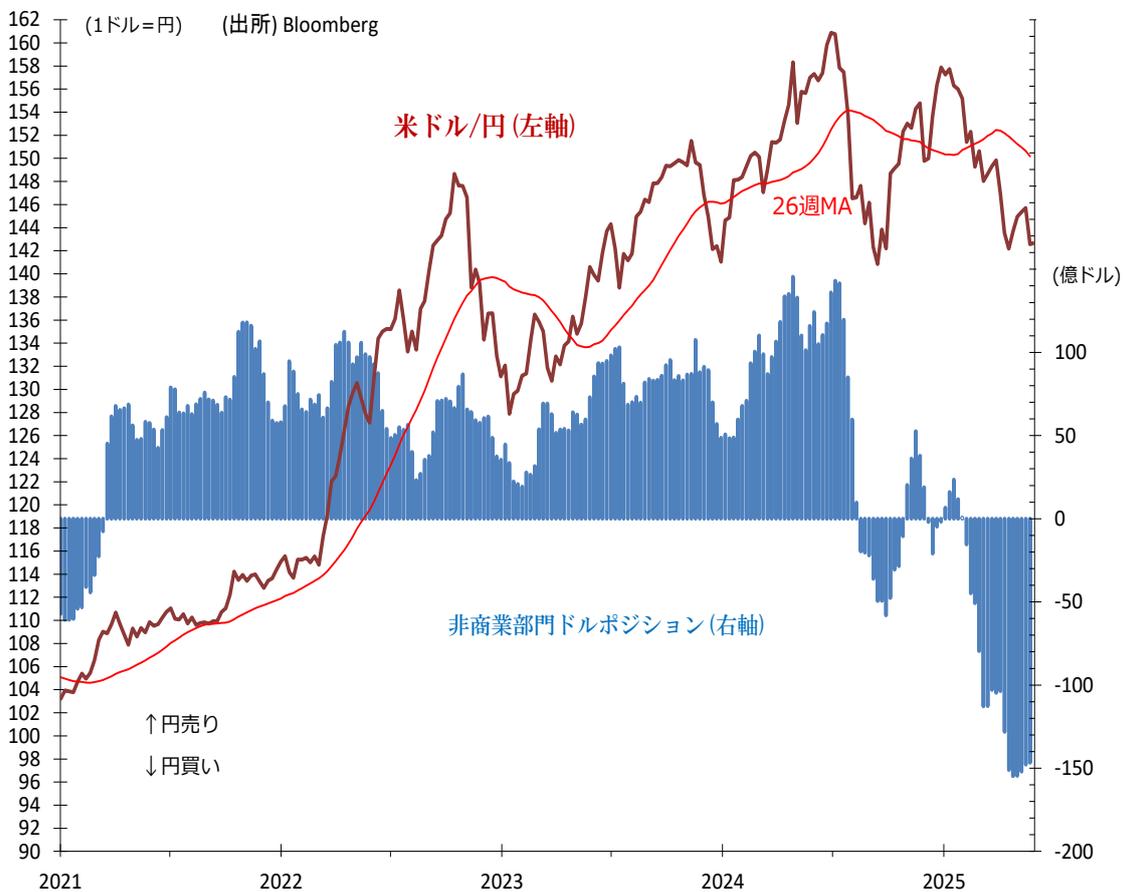
139.877 円をブレイクすると、ドル/円下落基調が強まるでしょう。

金利差からのドル/円推計値

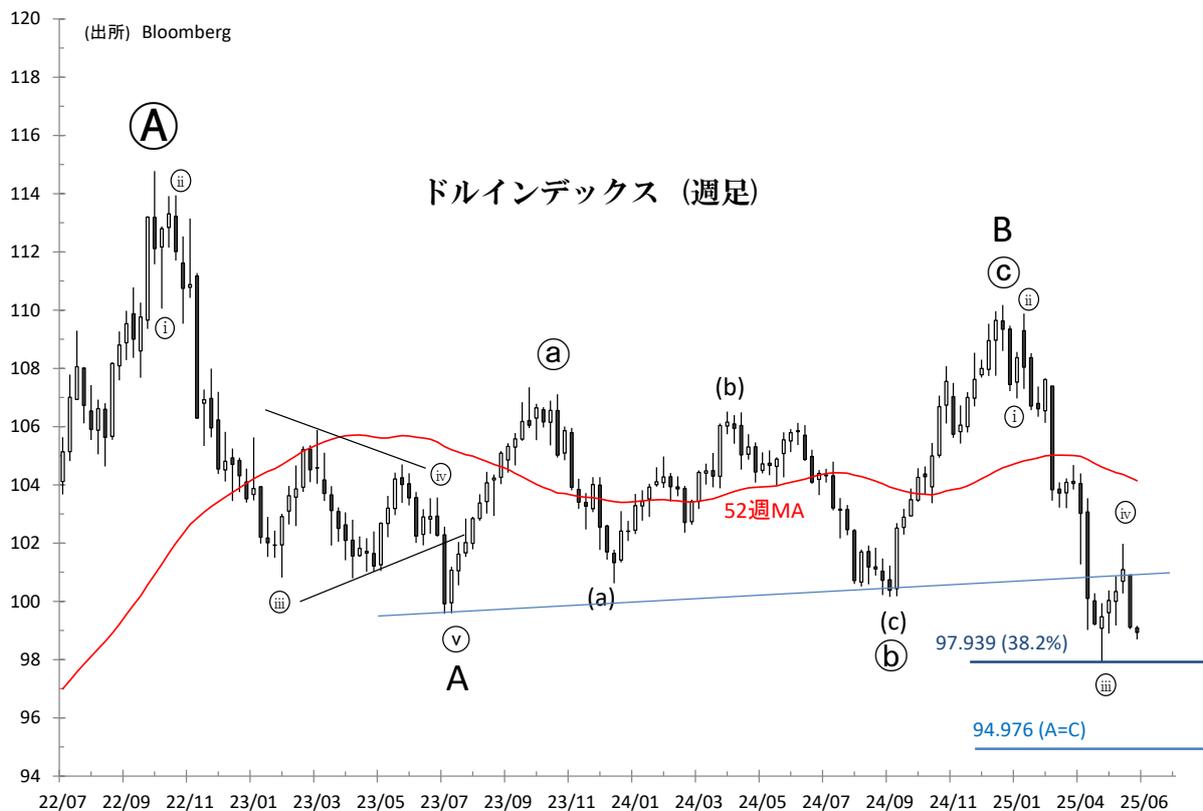
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[146.767 円]です。

投機筋の円買い持ち高が3週続けて縮小(2025年5月20日時点)

IMM 通貨先物市場で投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 146.0 億ドルから 144.7 億ドルへ3週続けて縮小しました。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

ドル指数は 4 月 21 日安値 (97.921) を以て、フィボナッチ・サポート [97.939] (08 年からのドル高に対する 38.2% 戻り水準) をちょうど達成しました。そこからは、C 波中マル iv 波によるリバウンドとみています。

5 月 12 日に付けた 101.977 は、関税協議を巡る米中暫定合意後のドル高値です。それは 23 年 7 月と 24 年 9 月の安値同士を結ぶラインを一時上回りましたが、結局のところドル買いは続かず週足には長い上ヒゲを残しました。ポジティブ (とみられた) なニュースに対するドル高が限られたことに、**市場の「ドル離れ」**が強まっていることが伺えます。

既にマル v 波によるドル安に入った可能性があります。そうだとすると、ドル指数はまもなく 4 月安値 [97.921] を下回り、[94.976] (A 波と C 波が等しく下がる水準) を試すでしょう。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
